

妖しの女性の物語

その後、浜に珍しい貝一対が見つかりました。きつと二人が貝になって結ばれ、一緒に潮騒を聞いていたのだでしょう。この貝は変らぬ愛の証として本覚寺に展示されています。

昔、真白良媛という美しい娘がいて、海辺で潮騒を聞いていたところ、都から来た一人の若者が通りかかりました。二人はひと目で恋におちりましたが、若者は都へ帰らなければなりません。若者は一対の貝を手にし「この貝をお互いと思いで大切にしよう。必ず戻って来る。」と言い、貝を持ち合いましたが、若者は二度と戻ってきませんでした。この若者こそ悲劇の皇子、有間皇子だったのです。

妖

ましろららら媛

一対の貝殻で成就した恋



●本覚寺(貝寺)
地元では別名「貝寺」として有名で、珍しい貝がたくさん展示されている。
〒白浜町瀬戸 ☎0739-42-3771



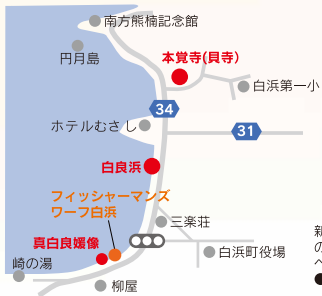
物語の主役となった貝で、当寺の名前が命名されたホンカクジヒガイも展示されている。



●円月島



●真白良媛像



「漁りめし」

新鮮な魚介類の中から好きなものを選び、その場で調理してくれ自分だけの漁師めしが食べられる。
●フィッシャーマンズワーフ白浜
〒白浜町 1667-22 ☎0739-43-1700

寄り道ぐるめ



●白良浜



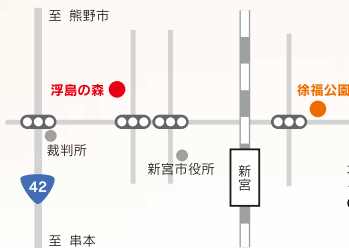
妖しの女性の物語

美しく気のよい娘であったおいは、浮島で木を伐っていた父に毎日お弁当を届けていました。ある日、おいのお弁当を届け一緒に食べようとした時にお箸を忘れたことに気付いき、お箸の代わりにとなる木の枝を探しに森の奥へ行きました。しばらくして、おいの悲鳴が聞こえ、父があわてて駆け込みましたが、おいの着物の端は見えたものの池には大きな泡だけが残っていました。「おいの、姿を見せておくれ。」必死の呼びかけにも返事はなく、それでもひたすら呼びかけると、大蛇の頭に乗って、おいが水の中から浮かびあがってきたのです。それから、おいの姿をもう二度と見ることはありませんでした。

参考：日本の民話―紀の国編― 菊木洋子著 燃焼社



●浮島の森
浮島の森には、おいが大蛇とともに沈んだ蛇の穴が今も残っている。入場料 100 円。駐車場には「おいの像」も建てられている。
〒新宮市浮島 3-38 ☎0735-21-0474



「徐福茶」

不老長寿の霊薬といわれる天台烏薬（てんだいうやく）の葉と緑茶がブレンドされている。
●徐福公園売店
〒新宮市徐福 1-4-24 ☎0735-21-7672

妖

あいの

蛇の穴に引き込まれた娘



寄り道ぐるめ



●おいの像